

# “共に暮らす”ための視点を養い、 おとしよりの暮らす力を支えよう!

2015

介護保険の導入と同時に「認知症介護の切り札」として鳴り物入りで登場したグループホームやユニットケアですが、「失敗作だった」と耳にするようになりました。でも、グループホームやユニットケア自体が悪いわけではありません。どちらからといえば、おとしよりが介護や支援を受けながら“ふつう”に生活することや、おとしよりと専門職とが“共に暮らす”ということのイメージがわからないことが問題のようです。本人支援と“共に暮らす”ための介護を考え、ひとつずつでも実践していくために介護現場にいる者が集まり交流する場として4回連続の研修を行います。

と き

第1回 2015年 12月23日(水・祝) テーマ:生活(203大会議室)  
第2回 2016年 1月16日(土) テーマ:知る(203大会議室)  
第3回 2016年 2月20日(土) テーマ:介護(101ホール)  
第4回 2016年 3月21日(月・祝) テーマ:地域(203大会議室)  
(時間) 午前10時25分～午後4時45分

会 場

兵庫県福祉センター 203大会議室・101ホール  
▶〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1

定 員

40人程度 (先着順/定員になり次第締め切ります)

参加費

各回 2,000円 (全4回参加・参加費前納の場合 6,000円)  
▶交流会参加費(希望者のみ): 4,000円程度

対 象

グループホームやユニットなど居住系施設の介護職など

▶ 宅老所や小規模デイ、小規模多機能ホーム、ショートステイなど居住施設以外の方の参加も歓迎します。研修の中で自分の介護実践に役立つことも多いと思いますし、また他施設の職員と交流する機会になると思います。

※研修終了後、毎回交流会を行う予定です。参加希望の方は、お申し込みください。

研修会だけでは話したりなかった方、もっといろんな人と交流したい人はぜひ交流会にご参加ください。  
(詳細につきましては、当日ご案内いたします)

主 催 兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会

協 力 加古川市・高砂市・稲美町・播磨町二市二町グループホーム協会/尼崎市グループホーム・グループハウス連絡会/大阪市グループホームネットワーク/大阪ケアのあり方研究会/NPO法人 街かどケア滋賀ネット/ユニット in 北京都/鳥取県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会/宅老所・グループホーム全国ネットワーク 近畿ブロック

連絡  
問合せ

兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会

〒660-0052 尼崎市七松町3丁目13-6 グループハウス尼崎内 (担当: 福原)  
TEL: 06-6497-0266/FAX: 06-6497-1215/E-mail: takurousyo\_gh\_net\_hyogo@yahoo.co.jp  
郵便振替: 00910-6-0159383/「兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会」

※この研修会は、兵庫県から「福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業」の補助を受けて開催しています。

# ●主な研修内容

回・日時	テーマ・講師・内容
<p><b>第1回</b> ..... <b>12月23日(水・祝)</b> <b>10:25~16:45</b> <b>203大会議室</b></p> <p>テーマ 生活</p>	<p><b>介護される人から共に暮らす人へ</b> <b>おとしよりの生活を奪う・かえす・共に暮らす</b></p> <p>▷「共に暮らす」「お互いさま」の關係に、おとしより本人と専門職がなること(なろうとすること)は、居住系研修の重要な課題のひとつです。おとしよりと同じ時間・同じ場所にいながら、実際は、共有することができずに、「ただいる」だけになっていないでしょうか。何をすれば、そんな關係になれるのかは大きな課題ですが、こればかりはハウツー的な方法論はないように思います。でも、何かしないと始まりません。</p> <p>場と時間を共有するとはどういうことかを理解するために、宅老所いる葉の中迎さんのお話を手がかりに考えていきたいとします。また、この研修の手始めとして「介護の視点」と「生活の視点」のちがいがら、支えるべきおとしよりの生活のことについて検討します。</p> <p>①基調講演 <b>場と時間をおとしよりと共有すること</b> —— 宅老所いる葉ではどうなっているのか ▷中迎 聡子さん(宅老所いる葉/鹿児島市)</p> <p>②課題提起 <b>施設でのおとしよりの生活を考える</b> —— 介護の視点と生活の視点 ▷福原 邦裕(ひょうご宅老連・事務局)</p> <p>③個人ワーク・グループワーク・1日のまとめ・「宿題」の説明</p> 
<p><b>第2回</b> ..... <b>1月16日(土)</b> <b>10:25~16:45</b> <b>203大会議室</b></p> <p>テーマ 知る</p>	<p><b>おとしよりのことを「見る・気づく・知る」こと</b> <b>生活の事実をとらえ、記録するために</b></p> <p>▷言うまでもなく、おとしよりのことを「知る」ことはとても大切なことです。知りえたことを介護や「生活支援」につなげていくことで、おとしよりの生活を支えることができます。では、おとしよりのことを「知る」とは何をすることででしょうか。おとしよりのことを「知る」ために必要な「生活の事実」は、どうやったら分かるのでしょうか。言葉だけが先行して使われるだけで、具体的な点は介護現場で十分に議論されていないように思われます。</p> <p>ライフサポートワークを使っておとしよりを支えている、いくのさん家の竹本さんのお話を中心にしながら、実践報告の議論などを通して介護現場でおとしよりのことを「知る」ことについて考えていきたいとします。</p> <p>①基調講演 <b>おとしよりの暮らしを支えるケアマネジメント</b> —— ライフサポートワークの実践事例を中心に ▷竹本 匡吾さん(いくのさん家/鳥取市)</p> <p>②実践報告 <b>おとしよりのことを「知る」とはどういうことか</b> —— おとしよりと介護職との關係から考える ▷兵庫・大阪・奈良の介護現場のスタッフのみなさん ▷まとめ: 福原 邦裕(ひょうご宅老連・事務局)</p> <p>③個人ワーク・グループワーク・1日のまとめ・「宿題」の説明</p> 

**※各地で復習のための自主研修を行う予定です。**



これまでの経験から、参加されたみなさんは一度聞いただけではよくわからないことが多いようなので、毎回の研修内容の復習や「宿題」の確認のため、自主的な復習研修も行っています。日時・回数は未定ですが、各地で複数回行う予定です。自主研修は別途案内します。できましたら、(自分のために)自主研修にもご参加ください。(参加費は不要です。本研修を受けていない人の参加も歓迎です)

## 第3回

2月20日(土)  
10:25~16:45  
101ホール



## 生活を支えるケア・介護とは何か

### 生活を支えることと介護の違い

▷以前とあるグループホームの職員が「グループホームとは何か」と聞かれて、「自宅でできなくなったことを続けてもらうところです」と答えてました。その言葉にすごく衝撃を覚えた記憶があります。

では、グループホームなどの居住系施設で生活を続けてもらうには何をすればいいのでしょうか。介護をすることとはちがうのでしょうか。案外、具体的な中身については実践レベルで十分に議論されていないようです。

グループハウス尼崎でのおとしよりの暮らしぶりを参考に、本人支援と「生活支援」のあり方を検討するとともに、この研修を通じて実際に取り組まれた「生活を支える(かえす)」実践から「生活を支えることとは何か」を考えてみたいと思います。

## ①基調パネルディスカッション

## 「生活を支えること」とはどんなことか

——グループハウス尼崎でのおとしよりの生活を中心に

▷三浦 研さん(大阪市立大学大学院生活科学研究科)

▷下木 薫子さん(グループハウス尼崎・主任/尼崎市)

## ②事例検討

## おとしよりに生活をかえす実践からみえるもの

——「共に暮らす」ことに向かうための第一歩

▷兵庫・大阪・奈良の介護現場のスタッフのみなさん

▷まとめ:吉田 洋司さん(グループホームいこい おりおの館/大阪市)

## ③個人ワーク・グループワーク・1日のまとめ・「宿題」の説明



## 第4回

3月21日(月・祝)  
10:25~16:45  
203大会議室



## 介護と地域をつなげて考える

### おとしよりの日常的な社会生活

▷居住系施設だけでなく、デイや小規模多機能ホームでも「安心・安全」のために施設の中に閉じ込めて介護してしまいがちです。おとしよりの日常生活を考える場合、家や施設の外の社会関係をもつことを支える必要があると思います。特別に外出することや出て行く先を特別に設けることよりも、日常生活のなかの「ちょっとした居場所」で社会との接点をとることの方が大切なことかもしれません。

地域との共生のために施設・職員の地域化とインフォーマル化が大切なこととしている鞆の浦・さくらホームの取り組みを中心に、おとしよりの日常生活で社会との関係や社会生活を支えるために必要なことを考えていきたいと思います。

## ①基調講演

## 鞆の浦・さくらホームの「地域共生モデル」の実践

——施設の「インフォーマル化」と職員の「地域化」

▷羽田 富美江さん(鞆の浦・さくらホーム/広島県福山市)

## ②実践報告

## おとしよりと地域との関係を考える

——社会との接点をつくること

▷兵庫・大阪・奈良の介護現場のスタッフのみなさん

▷まとめ:彌重 卓志さん(NPO法人えのもと地域活動協議会 みつるぎの里/大阪市)

## ③個人ワーク・グループワーク・1日のまとめ



※研修で難しくてややこしい話をしたあとは、みんなで楽しく介護現場の日々を語り合しましょう

研修会だけでは話したりなかった方、もっといろんな人と交流したい人はぜひ交流会にご参加ください。(詳細は当日ご案内いたします。毎回参加費4,000円程度です)

### ●会場案内



### ●兵庫県福祉センター

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-18

- ▶ 阪急・王子公園駅より西へ徒歩8分
- ▶ JR灘駅より北西へ徒歩10分
- ▶ 神戸市バス90・92系統「上筒井1丁目」下車南側すぐ



### 会場

兵庫県福祉センター 203大会議室・101ホール ▶ 〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1

### 定員

40人程度 (先着順/定員になり次第締め切ります)

### 参加費

各回 2,000円 (全4回参加・参加費前納の場合 6,000円)

▶ 交流会参加費(希望者のみ) : 4,000円程度

### 対象

グループホームやユニットなど居住系施設の介護職など

▶ 宅老所や小規模デイ、小規模多機能ホーム、ショートステイなどの居住系施設以外の方の参加も歓迎します。研修の中で自分の介護実践に役立つことも多いと思います。また、他施設の職員と交流する機会になるとと思います。

### お申込方法・注意事項

- ① 別紙「参加申込欄」に必要事項をご記入の上、FAX(06-6497-1215)にてお申し込み下さい。  
▶ E-mailにてお申し込みいただく場合は、必ずメールに必要事項をご記入いただきますようお願いいたします。
- ② 参加費は、事前にお振り込みいただくか、研修当日にお支払いください。  
▶ 参加費を先に郵便振替にてお振り込みいただけると運営上助かります。振込先は以下の通りです。  
(振り込み手数料は、ご負担ください。また、お振り込みいただいた参加費は欠席されても返金いたしません)  
郵便振替口座：00910-6-0159383/加入者名：兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会  
▶ 交流会の参加費は、当日会場にていただきます。
- ③ 申込〆切は、**2015年12月19日(土)**です。(※全4回・第1回参加分)  
▶ 第2回以降の申込〆切は、それぞれ開催日の5日前です。  
▶ 申込〆切後でも参加できる場合があります。事務局(担当：福原)までご連絡ください。
- ④ 参加をお断りするときのみ、ご連絡差し上げます。▶ 領収書は、当日受付にてお渡します。

### その他の注意事項

- ① 会場に駐車場をご用意できません。公共交通機関の利用をお願いします。車でお越しの場合は、会場周辺の駐車場をご利用いただきますようお願いいたします。
- ② 昼食は各自ご用意いただきますようお願いいたします。  
▶ こちらで昼食は準備いたしません。各自でご用意ください。研修会場内で昼食をとることは可能です。  
▶ 会場周辺の飲食店がそう多くありません。ご注意ください。
- ③ 交流会会場の詳細につきましては、当日会場にてご案内いたします。
- ④ 事務所の体制変更のため、電話・FAXでのご連絡がつながりにくことがあります。お急ぎのときは、福原(携帯：090-7757-1389)までお問い合わせください。
- ⑤ 参加申込書に記載された個人情報、当連絡会との間の連絡・お知らせの送付に利用させていただく以外には使用いたしません。

## 登壇者の紹介

### ▶中迎 聡子さん(宅老所いろ葉/鹿児島市)

▷1975年鹿児島県川辺町(現・南九州市)生まれ。1996年西日本短大(社会福祉コース)卒業後、「生きている」と実感できる仕事を探すため、民間企業の事務職、フリーターなどさまざまな仕事に就く。1999年に一番向いていないと思っていた介護の世界に飛び込み、特別養護老人ホームに勤務。おとしより一人ひとりの生活や関係を大切にしたい介護を追求したいという思いでいっぱいになり、2003年宅老所いろ葉を開設。著書に、いろ葉での介護を綴った『介護戦隊いろ葉レンジャー～若者が始めた愛と闘いの宅老所』(2007年)。



### ▶竹本 匡吾さん(社会福祉法人 地域でくらす会・いくのさん家/鳥取市)

▷1993年に鳥取県立保育専門学院卒。在学中にすでに保育の世界に馴染めないことに気づき、知的障がい者の入所施設に就職するも理想と現実のはざままで苦しみ、救いを求めて勉強会に参加するうちに、ひょんな縁で宅老所の立ち上げに関わることとなる。1996年に退職。鳥取市湖山町の民家(幾野さん宅)をお借りして仲間3人で「デイサービスいくのさん家」を開設。宅老所の取り組みをマスコミに取り上げてもらえて、1998年鳥取市からE型デイサービスを事業委託。1999年社会福祉法人格を取得。2001年グループホーム開設に伴い管理者に就任。在宅支援の仕事が続けたくてデイサービスでの宿泊事業もしていたが、小規模多機能型居宅介護の企画員養成研修に行き、自分のこれまでしてきたことはいったいなんだったのかと愕然とする。鳥取に戻ってすぐに準備を始め、2007年に「小規模多機能型居宅介護いくのさん家」を開所。立ち上げたものの理想が現場で消化できないもどかしさを感じて、共に学びあう場をつくる目的で鳥取県小規模多機能連絡会を2010年に立ち上げ、県内の小規模多機能ケアの普及啓発に努める傍ら、有償ボランティアの派遣や相談支援、認知症カフェを開催。介護サービスを内と外のふたつの視点で眺めながら、あるべき支援について模索と実践の日々。



### ▶三浦 研さん(大阪市立大学大学院生活科学研究科・教授)

▷1970年広島県生まれ。1997年京都大学大学院工学研修後期博士課程修了。1998年京都大学大学院工学研究科助手を経て、2006年から現職。もともと災害仮設住宅の研究をしていたが、阪神・淡路大震災でケア付き仮設住宅という不思議なグループリビングに魅了され、ケア付き仮設の一般施策化に協力。その後継となるグループハウス尼崎の基本設計を行った。その後、高齢者施設の研究に足を踏み入れ、外山義先生(故人)の助手となり、本格的に高齢者施設の研究を行う。



### ▶羽田 富美江さん(鞆の浦・さくらホーム/広島県福山市)

▷理学療法士として広島県福山市内の病院で働いていたが、義父の介護を契機に仕事を辞め、介護のかたわら知人の依頼で鞆学区「福祉を高める会」の指導を引き受ける。鞆の浦の福祉の状況を理解するにつれ、「高齢者や障がい者が住みやすい町をつくるのが私の最後の仕事」と感じ「さくらホーム」を設立。講演活動やNPO活動も精力的に行い、現在は発達障がい者に対して地域の理解を促すことに力を注いでいる。(さくらホームでは、小規模多機能サービス、グループホーム、デイサービスを運営)



### ▶吉田 洋司さん(グループホームいこいおりおの館/大阪市)

▷1987年高校在学中に突然自宅が宅老所になる。卒業後、プロのベーシストを目指す。バイト代わりに宅老所勤務。以後、認知症介護から離れることなく、昭和、平成、介護保険前後を目の当たりにし、自分たちの理想に近づくグループホームを作りたいと考えるようになる。2003年縁あって現在のグループホームを設立し、職員とのバトルを繰り返しながら、グループホームのあり方、本人支援のあり方、地域での活動支援などもがきながら実践中。



### ▶彌重卓志さん(NPO法人えのもと地域活動協議会 みつるぎの里(準備中)/大阪市)

▷児童福祉を専攻するも途中で地域福祉に興味をもち、卒業後、デイサービスに入職。2006年「東中浜デイサービスセンターゆう」に管理者として入職。同じ大阪市城東区にあった「蒲生の家」(当時)を目標にデイでおとしよりとかかわること努める。2013年ひょうご宅老連の「居住系施設スタッフ連続交流研修」に参加し、自分の身勝手で一方向的な介護に対する価値観を打ちのめされる。専門職のこだわりよりおとしよりの生活そのものと共にあり続けることを模索していたが、2015年4月の介護報酬改定で勤務先が廃止されたため失職。大阪市鶴見区で自治会が立ち上げたNPO法人が2016年春に小規模多機能ホームを開設する計画に参加。現在、開所に向けて準備中。



申込日 月 日

## 「居住系スタッフの連続交流研修2015」参加申込票

■法人・団体・個人(申込責任者)についてご記入下さい。

所属法人・団体名 お名前(個人)			
連絡先 住所	〒		
	Tel:	Fax:	
	E-mail:		

■参加者についてご記入ください。

No.	ふりがな 参加者 名前	会員の 有 無	全4回 参加	各回参加				交流会参加				
				①	②	③	④	①	②	③	④	
1		会 員										
		非会員										
2		会 員										
		非会員										
3		会 員										
		非会員										
4		会 員										
		非会員										
5		会 員										
		非会員										
6		会 員										
		非会員										